

1 受賞団体・個人の名称

JAIわて中央りんご部会(岩手県)

(問い合わせ先)

019-629-5652

岩手県農林水産部農業普及技術課

(経歴)

明治5年、JAIわて中央管内に苗木が導入され、りんご栽培が始まる。昭和50年代のわい化栽培導入を契機に新植・改植が進み、現在では岩手県下で最大の栽培面積を誇っている。

(受賞時の経営内容)

りんご栽培面積：717ha、栽培生産者数：1,027名



2 生産面の取組

① 部会の総力を挙げた特別栽培への取り組み

りんごの特別栽培は非常に難易度が高く、綿密な病害虫の集団管理が必要であるため、部会全体で農家主体の集団的防除マネジメントを実施し、共選共販組織としては、全国唯一のりんご特別栽培農産物認証を取得。

② 防除委員会による病害虫予察体制を確立

各地区に予察員(15~30人程度)を配置するとともに、防除予定日の5日前に発生予察を行い、次回の散布内容等について年間10回程度開催される予察会議で検討。

予察会議では予察員とJA職員、農業改良普及センター、東北農研センターが参加し十分な検討を行い、当初の防除計画を見直し。



③ 隔年防除の導入による安定生産

対象地区を特別栽培に取り組む責任地域と通常の防除を実施する地域の2ブロックに分け、隔年防除することで病害虫の発生を軽減。

3 経営面の取組

① 特別栽培による付加価値を活かした販路拡大

特別栽培りんごを軸としながら量販店と熟度保証などの新たな商品づくりを行い、関係を深めながら有利販売を促進。



② 生産資材品目数の絞り込みによる低コストの推進

JA管内全域で特別栽培に取り組むことで、統一防除などにより農薬等資材の品目数の絞り込みを進め、スケールメリットを活かした資材コスト低減の取組を推進。

4 取組の成果

① 特別栽培りんごによる有利販売の実現

特別栽培りんごの主な出荷先である量販店と東京都中央卸売市場の価格を比較すると、市場より1.2倍から1.6倍の価格を得ることができ、産地にとって有利な販売となった。

② JA管内全域での特別栽培の取り組みによるコスト低減

農薬等資材の銘柄統一が図られ、大量仕入れにより単価を下げることができ、農薬で約8%のコスト低減が図られた。

5 地域社会への貢献

① 地元の小学生を対象とした「りんご体験学習」の支援活動

生産者とJA職員が地域内小学校(12校)とのりんご体験学習を通じ、食べ物の大切さと環境を守る意識を培っている。



② 消費者を対象とした環境保全型農業の理解促進活動

生協組合員対象の商品勉強会へ積極的に赴き、特別栽培りんごの特徴と産地の取り組み内容を説明するなど、消費者の環境保全型農業の理解促進に努めている。